

平成 30 年 4 月 27 日

株式会社トーヨー養父バイオエネルギー

## 消化液(メタン発酵残渣)の散布開始について 平成 30 年 4 月 26 日の 朝日新聞但馬版に掲載されました

兵庫県養父市の国家戦略特区においてトーヨー養父バイオメタン発電施設の建設準備を進めてまいりましたが、この度、国庫補助事業で導入した自社車両による消化液散布の実演をし、その様子が朝日新聞但馬版に掲載されました。

当社は、国内全域で再生可能エネルギーの他、アグリ事業にも注力しております。当該地域では、特区認定事業者として営農とバイオメタンを組み合わせた事業を開始するなど、アグリ事業の新たな形にも取り組んでおります。

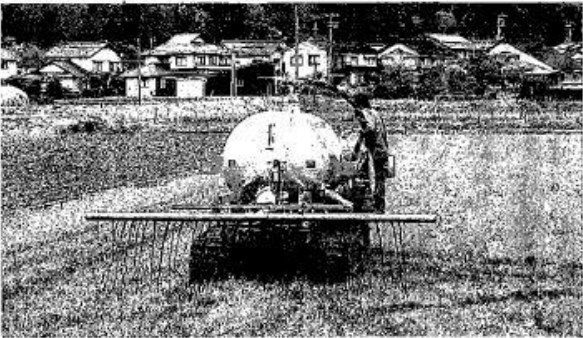
### メタン発電の液肥散布

2年目、養父のほ場に

養父市大蔵でバイオメタン発電所の建設を進めている「トーヨー養父バイオエネルギー」(本社・養父市、岡田吉充社長)は25日、他のメタンガス発電施設で出た残渣の液肥を持ち込み、市内のほ場に散布する作業を報道陣などに披露した。発電所建設が順調に進めば来年早々にも試運転を始め、発生する残渣を有機質肥料として有効活用していく計画だ。

液肥の散布は、発電所建設地近くのほ場約30アールで行われた。

(甲斐俊作)



メタンガス発電施設で出た残渣の液肥の散布作業＝養父市大蔵

同社の「トーヨー養父バイオメタン発電所」(仮称)は昨年10月に起工式があった。今年5月から基礎工事が始まり、12月に完成予定。2カ月ほどの試運転後、本格稼働するという。

液肥散布の取り組みは今年で2年目。昨年は、従来のやり方で作った米と比較して収量面で劣ることなく、食味は液肥を使った米の方が上回るという成績が得られたという。今年は養父市内外の農家に働きかけ、10アール以上の液肥利用を目標にしている。

で実施。農機メーカーと共同で改良中という散布車を使い、メタンガス発電をしている八木バイオエコロジセンター(京都府南丹市)から運んだ液肥約5トンを30分ほどで散布し終えた。

▲平成 30 年 4 月 26 日付 朝日新聞但馬版